情報学者
古　瀬　幸　広

# 情報化社会における図書館の役割

古瀬　幸広
furuse@kk.iij4u.or.jp
情報学者
国際大学GLOCOM客員教授

2004/7/13　1

## 「情報化社会」の定義

- 1960年代に誕生
  - マスメディアの発達
  - 電信電話、衛星中継などの登場
- 昨今の「情報化社会」の特徴
  - アナログ情報のディジタル情報処理化
  - インターネットによる双方向化
  - その高速化（ブロードバンド）

2004/7/13　2

## 特徴1：ディジタル情報処理化

- 文字のディジタル化
  - テレックス→コンピュータ
  - 日本語は1978年1月1日より（JIS規格制定）
- 音声、静止画、動画のディジタル化
  - 1990年代に発達。規格化が進む。
    - jpeg, mpeg
  - WWWの登場（1994年に爆発）
  - DVD の登場

2004/7/13 3

## 特徴2：双方向化

- インターネットの普及
  - 個人でも、世界に向けて情報発信可能
    - WWW
    - ML、メルマガ
- 「出版者」という概念の変化
  - マスコミから個人へ
  - いまやGoogleこそが、出版者
    - 編集者の不在

2004/7/13 4

## 特徴3:ブロードバンド化

- ADSL, FTTHの普及
  - 高速でインターネットに常時接続する時代
    - ADSL＝Asymmetric Digital Subscriber Line
    - FTTH＝Fiber To The Home
- 動画情報もディジタル化され、共有される時代
  - ブロードバンドの普及で、動画も共有
  - CS放送からネットワーク放送へ
- 「常時接続」の意味は大きい

2004/7/13 5

## ディジタル情報発信世界の特徴

- 長所
  - 国境がない／一次情報源にあたれる
    - グリニッジ天文台やホワイトハウスに直接確かめに行ける
  - 商業出版になじまない情報の共有に向く
    - 検索もできる
- 短所
  - 固定化されない→引用しづらい→知識として蓄積されない
  - 精査するのは自分自身

2004/7/13 6

## 「知の状況」の現在

- 「情報」はインターネットにちりばめられた
  - 料理法、栽培法、地図…
  - 一次情報（政府発表、統計、企業広報…）
- 「商業出版」は限界
  - 本が売れない
- 「学術出版」はとっくに限界
  - 流通しない

2004/7/13 7

## あるべき図書館の役割

- 本を集積するだけなら、倉庫
  - 「分類」し、整理してこその図書館
  - 利用者の利便性向上、学問発展への寄与
- 情報があふれるネット時代に向けて
  - 新時代においても「図書館」として機能するには、どうすればよいか？
  - Googleにその地位を奪われたままでよいか？

2004/7/13 8

## たとえば…

- 活字出版物とディジタル出版物
  - 情報の「固定」に差
- それが「参考文献」として利用されるためには
  - なんらかの形で情報が固定される必要
  - なんらかの形で、つねにアクセスが保証されている必要がある。
- 「図書館」、とくに大学図書館の役割では？

2004/7/13 9

## まとめ

- 21世紀の「知の館」であるために
  - 増え続ける書物の情報をディジタル情報技術で管理していくこと
  - 利用者に多様な検索手段、アクセス手段を提供すること
  - 書物のみならず、WWWに掲載されるディジタル出版物をもターゲットとすること
  - ネットワークで各図書館がつながり、効率のよい協業をすること

2004/7/13 10